第8回浴風会つながるフェスタ（10月19日）

浴風会
11月号
令和元年 11 月 1 日発行
【発行者】〒168-8510
東京都杉並区高井戸西 1-12-1
社会福祉法人　浴風会
京極　高宣
ＴＥＬ（代表）03-3334-2101
http://www.yokufuukai.or.jp/
【編集者】露口　長
【印刷所】株式会社サイド・ビー

スウェーデンの福祉から見た浴風会

元・駐スウェーデン特命全権大使　渡邉　芳樹

私が大学に進学し最初に住んだ富士見ヶ丘に近い浴風会は個人的に懐かしさを禁じ得ません。その後厚生省に入り医療保険や年金保険で長く働きました。

浴風会には単に杉並区で地域包括ケア等に貢献する社会福祉法人というだけではなく歴史と伝統に裏打ちされ社会福祉の一大拠点として全国の旗手であり続ける姿勢に期待しています。この巻頭言の機会を得て、私は6年余りのスウェーデン滞在経験からスウェーデンの福祉と社会に関していくつか述べさせて頂きたいと思います。

先ずスウェーデンには社会福祉法人や医療法人という特別な法人制度は存在しません。そのため地域包括ケアや地域共生社会といった日本的な取り組みの中核がこれらの法人であることを考えると話が噛み合わないところもあります。

そのうえで、スウェーデン社会を理解するための三つのキーワードに触れましょう。いずれも我が国を担う次世代の将来にかかわるものです。その第一は個人の自律（立）と平等、特に男女平等。他者に不平等な関係で依存しない自律（立）が維持できる社会こそ究極の目標です。専業主婦の排除もここに起因します。超リベラル社会であって個人の自己実現と多様性に対するリスペクトは強く、人の相互依存と支え合いの我が国の伝統とは対極的です。それでも自己責任として個人を放り出す訳ではありません。

それが第二のキーワード、「社会への信頼」。個人主義が欧州で一番強いスウェーデンですが「政府は何か素晴らしいものだ。」と国家個人主義に対する自信に溢れています。

第三に、「変容と革新」。常に世界の荒波を乗り超える世界一の水準を目標に職業の流動性が高く変容と革新に対する信頼が厚いことも特筆されます。

以上の背景から障害者政策に見るヘルパー依存の排除も、また患者をすぐに診てくれる優しい医療ではなく患者の真のニーズに対応する優れた医療の追求も理解できます。夫婦間や家族、ボランティアに依存せず税金は高くても政府による優れたシステムを指向する考え方に帰着します。また医療や認知症ケアにおける質の登録制度による質と効率の追求もスウェーデンらしい取り組みです。

以上、私たちの常識と離れた原則に見えますが、我が国の将来の姿の選択に大いにかかわるうえに、スウェーデンからは超高齢社会日本に対する売込みが更に激しくなることでしょう。

海外研修を終えて

本部事務局
職員課長　多胡　岳志

本年9月4日から13日までの10日間、公益財団法人社会福祉振興・試験センター及び株式会社福祉施設共済会が主催する、2019年度社会福祉施設経営管理者海外研修・調査に団員として、福祉先進国であるオランダ及びスウェーデンを視察する機会を得ました。研修・調査は、認知症村で有名なホグウェイ等の高齢者施設3、スヌーズレンの開発で有名なハルテンベルグセンター等の障害者施設2、森の学校イ・ウルオック・スクル・ウートシクテン等児童施設2箇所の視察及び両国制度の概況説明により行われました。

オランダの高齢者政策は、過去には養護老人ホーム（日本では軽費老人ホームやケアハウスからサービス付き高齢者住宅）のような大規模住宅サービスが多数存在しましたが、現在では在宅でのケアが基本となっています。オランダ全体では85％が在宅での生活、15％がナーシングホームで生活しています。在宅ケアでは、自分の生き方・幸せ・快適のためのサービスの考え方のもと、自分の持っていたネットワークやつながりを大事にしていました。

看護・福祉に関する資格は一体化した資格体系で、レベル1ケアヘルパー：家事援助が主体、レベル3ケアワーカー：介護計画を策定できる、レベル4看護師：看護診断・看護計画、身体介護や医療処置からレベル8看護師博士課程の修了者となっています。

フロリアンデナーシングホーム（オランダ）

デイサービスのリビング

スウェーデンの福祉制度は、1992年の制度改革により1985年に10万床あった入院ベッド数が2009年には2万5千床と四分の1に減少しました。これに伴い、出産での入院は1日、高齢者の骨折でも入院2日目には県のニーズ判定員がカンファレンスを開始して判定（日本での要介護認定）され、速やかに手術、リハビリ、地域復帰の流れとなります。高齢者の生活は、ナーシングホーム（〝特別な住居〟と呼ばれる）を含め市区町村の責任と明確化され、在宅生活を重視した施策となっています。入居判定（要介護認定）を受けて特別な住居に入居後は特別な医療が必要でない限り、訪問医師や施設内看護師の医療を受け、終末期においては、終末医療チームのサポートを受けながら施設で看取られます。なお、特別な住宅では入居後2年以内に半数が亡くなる状況です。

両国とも移民の国であり、特にスウェーデンは1000万人程度の人口に年間5万人のペースで人口流入が続いていることから差別意識も少なく、視察で訪れた高齢者施設では、職員の50％が外国人労働者で、説明に当たられた介護リーダーもアフリカ系の移住者でした。

施設のご利用者の居室（スウェーデン）

↑上写真の施設の中庭

本研修参加前に両国については漠然と「各種福祉の進んだ国で移民も多く余裕のある働き方の国々」とひとくくりに考えていました。しかし実際に研修で現地を訪れると、制度・環境・文化並びに生活習慣の違いを感じ、働き方や過ごし方がまるで異なる国でした。

施設視察においては、グループホームやユニットケア等日本でも主流となった施設形態であっても、居室の広さや食事作成などあらゆる部分で目を見張る違いが多くありました。

労働環境面では、資格制度において、同一資格制度の中でステップアップの目指せるオランダ、日本に近いスウェーデンと全く異なる両国ではありましたが、日本より権限の強い正看護師を核とした職種間連携。また、短時間労働や外国人労働者の受け入れ、職員やボランティアの「この施設で働きたい」という帰属意識の高め方等参考にすべき点が多数ありました。

両国においても、制度や労働環境は多くの変遷を経ており、現在でも完成したものではないようです。日本とは法制度やボランティア等の基礎となる文化が異なるため、すべてを取り入れることは絶対にできないし取り入れても失敗することも多いと思われます。

本研修・調査団員14名は日本各地の施設の役職員であり、短期間ではありましたが、移動や食事を含めた交流の中で、多くの驚きや意見を交換し、学びを得ることができました。これをもとに、取り入れられるものは取り入れ、取り入れないものでも考え方の参考として今後に活かしていきたいと思います。

最後に、本研修・調査に参加する機会を与えていただいた主催団体並びに浴風会の皆さまに心より感謝を申し上げます。

ハルテンベルグセンターにて
（後列右から２人目＝筆者）

受賞！第14回アクティブ福祉ｉｎ東京（9月30日）

優秀賞

「人生の最終段階におけるご利用者への
医療と介護の関わりから見えてきたこと」

南陽園　4階ケアワーカー
井上　裕賀
弦巻　茂樹

優秀賞

「座面圧測定からの車椅子座位の取り組み
～座位サポートケアの向上～」

第二南陽園　機能訓練指導員
明石　たかね
吉田　真麻

浴風会病院参事に就任して

浴風会病院事務局参事　宮本　智

皆さん初めまして、既に4ヵ月が経ちましたが、本年7月1日付で浴風会病院にお世話になることになりました宮本と申します。

着任の際、私自身の人生の中では、京王線や井の頭線沿線には今まで仕事においてもあまり縁がなかった所でしたが、初めて高井戸駅を降り、神田川を渡り（現在は近道で通勤しています）閑静な住宅街を歩いてきますと、この杉並区に緑に囲まれた広大な敷地があった驚きは、今でも記憶に残っております。

私はこれまで主に国立病院等において急性期病院の企画・経営といった分野に携わってまいりました。また病院の建替整備にも携わったことがありました。一か所概ね3年で転勤が伴っていたため多くの病院を経験いたしましたが、当院のように老人ホーム施設等を同一敷地内に幾つも持つ慢性期病院は、4ヵ月たった今でも戸惑うことがあります。しかしながら今までの病院経験を活かしてお役に立ちたいと考えております。

先般、評議員会及び理事会に出席させていただきまして、当院の収支は厳しい状況であることを知りましたが、その反面病院に対する関心と期待感があることをひしひしと感じました。

医療の在り方が問われる中、病院経営は難しいと思いますが、当然のことながら経営が安定していなければ、「質の高い医療、患者さまや職員にとって良い環境やサービス」を提供することができないということです。

超高齢社会を迎え、その現実に対応すべく診療報酬制度を踏まえ「地域包括システムや医療機能の分化、連携、強化」といった重要性をしっかりと受け止める体制づくりが必要であり、それを見据えた経営を強いられていきます。

終わりに、病院経営の安定を図るとともに安全で質の高い医療を提供し、地域に信頼される病院運営ができるよう微力ではありますが、誠心誠意努力してまいりたいと思います。

また、施設利用者の方々に敷地内に病院があるから安心して生活ができるといった病院でありたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

浴風会の動き（10月）

全体研修（10月15日）

【本部事務局】

2日　「秋季彼岸法要」開催。
3日　一般社団法人杉並たてもの応援団区民37名見学。
12～13日　高井戸センターまつりに利用者作品等出展。
17日　渋谷区みまもり支援員58名見学。
19日　「第8回浴風会つながるフェスタ」開催。
24日　「新宿中村屋」様より各施設利用者へあんみつ等（約4000個）を寄贈。
25日　「顧問・参与会」開催。
30日　浴風会総合防災訓練実施。
第一部　法人全体「大地震発生を想定した防災訓練
第二部　浴風園「火災想定訓練」
＊近隣3町会の皆様、杉並消防署、消防団の参加協力を得て実施。（浅井）

浴風会ケアスクール
Cafeオレンジリボンウッド

1日　介護職員初任者研修13期生スクーリング毎週火曜日。受講生15名。講師・大津陽子氏、越智佳子氏、（職員）山本、広中、清水、山内、宮島。
9日　「よくふう語ろう会」参加者21名。
11日　豊島区受託講座「精神障害者の理解と対応」講師・相原和子氏、井藤佳恵氏。参加者23名。
19日　「第8回浴風会つながるフェスタ」参加者約600名。
23日　杉並区社会福祉協議会「ささえあいフォローアップ研修」講師・西村茂氏。参加者11名。
25日　介護職員初任者研修14期生開講式。スクーリング毎週金曜日。受講生8名。講師・服部。

cafeオレンジリボンウッド開店。来店者30名。**11月は11日、22日、11時30分～15時　本館1階第三会議室にて開店いたします。**パン、焼き菓子、コーヒーの他素敵な小物の販売と、折り紙など一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。（鈴木）

【老人福祉事業】

浴風園（養護老人ホーム）

2日　埼玉県川越への日帰り旅行を行い、合計43名のご利用者が参加されました。昼食は川越初かり亭でお楽しみいただきました。メニューはいも懐石で、うどんや天ぷら、サツマイモごはんなどを頂き、参加された皆さんは、普段とは一味違った食事に舌鼓を打たれていました。帰りのバスでは、下車することが出来ず残念ながら車窓からの見学となりましたが、川越小江戸の町並みを見ました。中でも時の鐘では、皆さん歓声があがりました。一日の最後には、農産物の直売所あぐれっしゅ川越でご当地の特産のお買い物を楽しみ、川越を後にしました。

19日　毎年恒例となった芋煮会を行いました。当園ご利用者に昼食でお楽しみいただき、大満足とのお声を多数いただきました。また同日の開催されました浴風会つながるフェスタ来園の皆様にも、芋煮を提供させていただきました。あいにくの天気の中でしたが、大盛況で午後2時頃には完売となりました。（阿南）

松風園（軽費老人ホーム）

3日　今年の日帰り旅行はご利用者39名と帯同職員8名がバス2台に分乗し、新江ノ島水族館と鶴岡八幡宮に行って来ました。新江ノ島水族館で愛らしいアシカとイルカのショーなどを堪能し、何十年ぶりだろう、年を忘れたようだと仰る方もいらっしゃいました。昼食は鎌倉プリンスホテルにて湘南の美しいオーシャンビューを眺めながら、名産品のしらすなどの和食コースに舌鼓を打ちました。鶴岡八幡宮と小町通り散策では、以前来られた時の思い出と今日の新しい発見を比べたり、昔を懐かしんだりと、ご自身の鎌倉今昔物語を楽しんでおられました。（宮中）

浴風会ケアハウス

10月前半　つながるフェスタのバザー用小物作りを行い、中学生も参加し交流を持ちました。端切れが、エプロンやバッグ、シュシュに変身しました。これからの時期にぴったりな毛糸の靴下もできました。
19日　「つながるフェスタ」。ご利用者もバザーの売り子をご協力くださいました。中学生も手伝って下さり盛況に終わりました。（尾滝）

【介護保険事業】

南陽園（特別養護老人ホーム）

9月30日　「みんなの音楽会」に南陽園合奏団とハッピースマイル南陽園の2チームが参加しました。
3、4日　「バスハイク」で井の頭自然文化園に出かけました。
5、6日　「高井戸センターまつり」。浴風会は毎年ご利用者の作品を展示しており、南陽園は、クラブ活動やリハビリのスタッフと共に作業療法の一環として作成した作品を多数展示しました。（丸山）

南陽園在宅サービスセンター（認知症対応型通所介護）

23日　今年度第一回の運営推進会議を開催しました。
ご家族をはじめ、杉並区介護保険課職員、ケアマネ、地域包括支援センター職員の方々にもご参加いただき、センターの事業内容についてご説明するとともに、ご家族の思いやセンターへのご意見などお聞きすることができました。今後も地域の中で安心してお過ごしいただけるよう努めてまいります。（鶴間）

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。（鶴間・工藤）
◎電話03―3334―2743

第二南陽園（特別養護老人ホーム）

5、6日　「高井戸センターまつり」に、クラブ活動等で制作をしたご利用者の

作品を展示しました。

17日　「秋のバスハイク」で浅草に行きました。仲見世・浅草寺の散策を楽しみました。常香炉の前では、観光に来ていた小学生が車いすのご利用者に煙を送ってくださいました。（山崎）

第二南陽園在宅サービスセンター（通所介護、介護予防通所介護）

5、6日　「高井戸センターまつり」にて、皆様の絵手紙作品を出展いたしました。日頃の成果を披露する良い機会になりました。

16日　「陶芸教室」を開催。ものづくりのプログラムは大人気です。（隈本）

★ご見学のお申し込みやデイサービスへのお問い合わせは随時受け付けています。

◎03―3334―2140

第三南陽園（特別養護老人ホーム）

9月30日　「みんなの音楽会」。第45回みんなの音楽会が浴風会大ホールにて行われ、総勢28名のご利用者が参加されました。当日は「瀬戸の花嫁」と「世界は2人のために」の2曲を様々な楽器の演奏と共に披露しました。終わった後の嬉しそうな皆様の表情が印象的でした。

5、6日　今年も「高井戸センターまつり」の作品展に参加しました。数か月かけて作成した作業療法のペーパー芯アートの花嫁や書道クラブ、折り紙クラブ等の作品を展示させていただきました。当日は多くの方が来場され「素敵な作品ですね」と熱心に鑑賞されていました。（佐々木）

グループホームひまわり

9月30日　「みんなの音楽会」へお揃いの衣装を身に纏い、出演しました。リズミカルな「ベサメムーチョ」は全身を使いながら太鼓で演奏し、「浜地鳥」はトーンチャイムのきれいな音色を会場に響かせました。ご利用者の皆様はとても生き生きした表情をされていました。

19日　「つながるフェスタ」。ひまわりではパンマイスターの資格を持つスタッフがパンを作り、ご利用者に売り子さんになっていただき「ひまわりカフェ」を開店しました。屋上の畑で収穫したさつまいもを使った「さつまいもパン」等、7種類販売しました。いつもと違う賑やかな場所で、かわいらしいエプロンをつけての販売では、「いらっしゃいませ。はい、何個？」「美味しいわよ。私も食べたいの。」など、お客さんへ話しかけ、手際よくパンを袋へ入れて笑顔で接客されていました。とても大盛況で、2時間程度ですぐに完売してしまいました。（谷口）

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

今年度後半の家族介護教室は、『人生を自分らしく締めくくりたい～備えておくべき5つの事』というテーマで、11／13（水）と12／11（水）に開催します。11月の教室は、区報で案内すると直ぐに申込みが埋まってしまい、区民の皆様の関心の高さを感じました。人生の最期に待ち受ける医療という難問。自分らしく往くために知っておくべきことを、講師の経験を交えて分かり易く教えて頂きます。講師は、浴風会病院内科医師の佐藤純一氏です。是非、12月の教室にも皆様の参加をお待ちしています。（尾関）

杉並区地域包括支援センター　ケア24高井戸

◎電話03―3334―2495

【病院事業】

浴風会病院

今年もインフルエンザ予防接種のご案内を開始しております。当院の予防接種は予約制となっております。満65歳以上の方には区より「インフルエンザ予防接種予診票」が届きますので、忘れずにお持ちください。ワクチンが無くなり次第終了となりますので、お早目のご予約をお願いいたします。（中澤）

お電話でのご予約は、月曜～金曜（祝日を除く）午前9時から午後5時までです。

予約電話　浴風会病院（代表）

◎03―3332―6511

老健くぬぎ（介護老人保健施設）

24～26日　デイケアで「運動会」を実施。パン食い競走などの競技を行い、皆さま日頃のリハビリ以上に頑張っていらっしゃいました。

25、26日　2階フロアでも「ハロウィン・運動会」を行いました。パン食い競走や玉入れをちょっとした仮装をしながら楽しみました。

2階フロアにて、老健くぬぎの開設記念として毎年恒例となった「フルーツバイキング」を実施。それぞれのフロアで3回に分け、綺麗に盛り付けた様々なフルーツを召し上がっていただきました。

2階フロアでは毎月恒例となっているカラオケ（木曜日）、書道クラブ、折り紙クラブ、ボランティアによる音楽コンサートも開催しております。（森屋）

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。

◎03―5336―7701（代表）

◎03―5336―7734（入所）

◎03―5336―7704（デイケア）

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

3～4日　認知症地域支援推進員研修（新任者）　研修会場札幌　310名受講

7～18日　第2回認知症介護指導者研修後期　18名修了

10～11日　認知症地域支援体制推進合同セミナー　152名参加

24日　東京センター運営会議

28～11月1日　認知症介護指導者フォローアップ研修　7名受講

31～11月1日　認知症地域支援推進員研修（現任者）　研修会場岡山　（富島）

つなげたい浴風会の今⑨

地域サービス部

「雨ニモマケズ風ニモマケズ 地域ノ人々ノ心ニ寄リ添ッテ」

業務執行理事・地域サービス部長　遠藤　雅晴

地域サービス部は、ケア24高井戸（杉並区地域包括支援センター）、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション（LSA派遣業務を含む）、そして、よくふう保育園から成り立っています。

4つの事業所は、事業の目的・性格が異なり、場所も違いますが、共通する特徴をひと言でいえば、「雨ニモマケズ 風ニモマケズ 地域ノ人々ノ心ニ寄リ添ッテ」いる仕事と言えるでしょう。

春夏秋冬、雨が降ろうと風が吹こうと、地域サービス部の職員は、各自のミッションに従い、地域の利用者のもとに出かけて行きます。保育園の子どもたちも、雨にも風にも負けずに、保護者と一緒によくふう保育園に元気に通って来るのです。

●ケア24高井戸―地域包括ケアシステム構築の扇のかなめ―

11月の家族介護教室「人生を自分らしく締めくくりたい～備えておくべき5つの事」（講師：浴風会病院医師）は大変好評で、区報に案内が出るとすぐに参加希望者で定員（30名）がいっぱいになりました。また、昨年度から始まった「これからの地域を考える会」を母体にして、上高井戸地区で「子ども食堂」のような支え合い活動ができないか、地域の皆さんと一緒に検討しています。

●居宅介護支援事業所―介護保険サービスの頼もしいコーディネーター―

5人のケアマネージャーが、要介護者が可能な限りその人らしい生活が送れるよう、利用者のニーズに合ったケアプランを作成し、適切なサービスの提供に努めています。

●ヘルパーステーション―在宅生活を支援する縁の下の力持ち―

現在、2人のサービス提供責任者と10人の登録ヘルパーが、連携を密にして、浴風会の内外で、利用者中心の適切な訪問介護サービスを提供しています。

また、区内11か所の都営シルバーピアや区営みどりの里（高齢者専用住宅）に派遣しているLSA（生活援助員：延べ15人）も、相談業務や、団らん室での交流、介護予防活動を推進しています。

●よくふう保育園―浴風会の中の子どもの城―

11月に新しいお友だち（地域枠の0歳児）が入園し、利用児童は14人になりました。今年度は弾力化によって定員が14人（0歳児4人、1歳児6人、2歳児4人）なので、今月で入園率100％です。上水保育園（運営受託者）の保育理念に基づき、「しっかり食べる子」「よく考える子」「思いやりのある子」を目標に、子どもたちは今日も元気いっぱい、保育室で楽しく過ごしたり、晴れた日は浴風会の芝生で遊んでいます。

地域サービス部の事業所概要

（10月1日現在）

●ケア24高井戸
（杉並区地域包括支援センター）
設立：平成18年4月
相談件数：637件
利用者数：271人

●居宅介護支援事業所
設立：平成18年4月
利用者数：179人

●ヘルパーステーション
設立：平成17年6月
利用者数：49人
LSA業務開始：平成19年2月
派遣箇所：11ヶ所

●よくふう保育園
設立：平成29年4月
認可定員：15人
（令和元年度は弾力化により14人）
利用児童：13人

編集後記

春夏秋冬それぞれを6つに分ける二十四節気というのがあり、1日の24時間に対応するそうです。夏至は正午にあたり、ともに太陽が最も高い位置にあり、逆に冬至は24時で、最も低くなります。人生に置き換えると、誕生は春分（6時）ごろで、15歳が立夏（9時）、30歳が夏至（12時）で、60歳になると秋の始まり、75歳は立冬（21時）で秋たけなわであると、今村清著「数楽のこころ」（文芸社）には書かれています。今年の立冬は11月8日です。

浴風会の正門脇に立って会の歴史を見守ってきた大クヌギが、2011年9月の台風15号によって倒壊しました。杉並区指定の貴重木で、樹齢推定150年以上、高さ21.5m、幹の周囲3.25mと記録されています。往時には枝葉を空高くいっぱいに伸ばし、秋が深まれば黄葉して、色づいた葉がドングリの実とともに落ちる、まさに“人生は落葉樹”と思ったものです。人生の秋は“収穫のとき”とも言われます。（つ）

ご芳志

令和元年9月16日から10月15日

多くの方々よりご芳情をいただきました。ありがとうございました。

〈金品・物品〉
宮沢　郁子様、賀川　義雄様、角張　文子様、林　四郎様、
東京善意銀行様、
公益財団法人東京ミュージック・ボランティア協会様

【ご意見をお寄せください】
〒168-8510※住所なしで届きます
機関紙「浴風会」編集部係
soumu2@yokufuukai.or.jp
http://www.yokufuukai.or.jp/